１．岡本国際賞(International Okamoto Award)

昭和 62 年度　Dr. Michael J. Brody　　米・アイオワ大学
「高血圧の成因に関する研究」

平成元年度　Dr. Walter Lovenberg　　米・メレル・ダウ国際研究所
「高血圧の成因・予防、治療に関する研究」

平成元年度　中島　宏　博士　　WHO 事務局長
「循環器疾患の予防ならびにその基礎的研究の振興」

平成 2 年度　Dr. Jean Sassard　　仏・リヨン大学
「遺伝性高血圧の成因と病態生理に関する研究」

平成 3 年度　Dr. Detlev Ganten　　独・ハイデルベルグ大学
「高血圧の成因に関する遺伝分子生物学的研究」

平成 4 年度　家森　幸男　博士　　島根医科大学
「高血圧性循環器疾患の成因と予防に関する基礎的研究」

平成 5 年度　Dr. Edward D. Frohlich　　米・アルトンオックスナー研究所
「高血圧の病因、病態生理と治療に関する研究」

平成 6 年度　増山　善明　博士　　和歌山県立医科大学名誉教授
「高血圧の成因における神経・血管性因子に関する研究」

平成 7 年度　稲上　　正　博士　　米・バンダービルド大学
「レニン・アンギオテンシン系に関する生化学的、分子生物学的、研究の開拓、展開」

平成 8 年度　松尾　壽之　博士　　国立循環器病センター
「循環調節に係るナトリウム利尿ホルモンの発見とその意義についての研究」

平成 9 年度　眞崎　知生　博士　　国立循環器病センター
「血管収縮因子エンドセリンの発見とその機能の解明ならびに各種筋蛋白質の確立に関する研究」

平成 10 年度　Dr. Russell Ross　　米・ワシントン大学
「“Response-to-Injury Hypothesis of Atherosclerosis” の提唱ならびに血小板由来成長因子の発見など粥状硬化形成に関する研究」

平成 11 年度　荒川規矩男　博士　　福岡大学
「ヒト・アンギオテンシンの研究、高血圧の運動療法をはじめ成人血管病に関する卓越せる研究業績」

平成 12 年度　Dr. Oliver Smithies　　米・ノースカロライナ大学
「成人血管病の分子遺伝学的研究を開拓せる功績」

平成 13 年度　村上　和雄　博士　　筑波大学名誉教授
「遺伝子工学的、発生工学的方法を駆使したレニン・アンギオテンシン系の分子的基礎の解明」

平成 14 年度　寒川　賢治　博士　　国立循環器病センター
「独自に考案した方法による各種生理活性ペプチドの発見とそれを基盤とした循環調節系研究の新分野開拓」

平成 15 年度　Dr. Marc A. Pfeffer　　米・ハーバード大学
「心筋傷害に際する異常適応過程として“ventricular remodeling”の概念提唱と ACE 阻害薬によるその防止に関する研究」

平成 16 年度　Dr. Antonio M. Gotto, Jr.　　米・コーネル大学
「リポ蛋白質の構造、代謝、機能の解析を中心とするリポ蛋白質、動脈硬化に関する広範な研究」

平成 17 年度　中尾　一和　博士　　京都大学
「ナトリウム利尿ペプチドについて基礎ならびに基礎から臨床展開に亙っての広汎なる研究」

平成 18 年度　Dr.Michael A.Gimbrone, Jr.　米・ハーバード大学
「血管の生物学的、病態生理学的機能に関する研究方法の開発と分子遺伝子学的研究に対する貢献」

平成 19 年度　荻原　俊男　博士　　大阪大学名誉教授
「高血圧の病態・成因に関する分子遺伝学的研究」

平成 20 年度　Dr.Pavel Hamet　　加・モントリオール大学
「ヒトと遺伝性高血圧モデルにおける高血圧の発症機構に関する分子病態生理学的、遺伝学的研究」

平成 21 年度　鍋島　陽一　博士　　京都大学
「健康維持と疾患発症の遺伝子分子学的機序に関するモデル動物による研究」

平成 22 年度　Dr. Peter Libby　　米・ハーバード大学
「血管病における炎症と免疫の役割」

(記念特別賞)　Dr. Theodore W. Kurtz　　米・カリフォルニア大学
「自然発症高血圧ラットの分子遺伝学」

平成 23 年度　成宮　　周　博士　　京都大学
「各種プロスタグランジン受容体の同定と機能の解明」

平成 24 年度　Dr. Nilesh Jayantilal Samani　英・レスター大学
「心血管疾患の遺伝学」

平成 25 年度　藤田　敏郎　博士　　東京大学先端科学技術研究ｾﾝﾀｰ
「食塩感受性高血圧の成因」

平成 26 年度　Dr. Eric N. Olson　　米・ﾃｷｻｽ大学ｻｳｽｳｴｽﾀﾝ医療ｾﾝﾀｰ
「心臓血管系の制御発達、疾患および修復を制御する調節遺伝子の発見およびそのメカニズム」

平成 27 年度　永井　良三　博士　　自治医科大学
「心血管系、及び代謝臓器の機能連関に関する分子細胞生物学的研究」

平成 28 年度　Sir. Rory Collins　　英・オックスフォード大学
「心血管疾患の疫学と治療の知識を変えた大規模な臨床試験の設計、実施と分析」

平成 30 年度　湊　　長博　博士　　京都大学
「免疫老化および癌免疫のメカニズムの解明」

2020 年度　今井眞一郎　博士　　米・ワシントン大学
「NAD^+/sirtuin による全身の老化・長寿の制御機構を解明し nicotinamide mononucleotide を使った抗老化介入効果の検証」

2022 年度　Dr. Deepak Srivastava　　米・グラッドストーン研究所
「心血管系の発生制御機構、先天性心疾患の遺伝学と心筋リプログラミングと再生法に関する重要な発見」

2024 年度　森　　和俊　博士　　京都大学
「小胞体内に異常蛋白が蓄積され生ずる小胞体ストレスとそれに対応する小胞体ストレス応答に関する重要な数々の発見」